

発行所「日本余暇学会 発行人 園田碩哉 発行日 平成二十一年一月五日

日本余暇学会ニュース

第65号

日本余暇学会事務局
〒191-0016
日野市神明1-13-1
実践女子短期大学
生活福祉学科園田研究室内
FAX 042-584-5428
e-mail
info@yokagakkai.jp
Home Page
http://www.yokagakkai.jp/

ワークシェアリング時代に「余暇価値革命」を

ク・ライフ・バランス」社会の実現も難しい。

平成二十一年は暗雲立ちこめる中、幕を開けた。人員削減の動きは急であり、若者を中心に多くの人が職や住居を失った。これまで、契約社員でも「直接雇用」であった職が、「派遣」に置き換わったことがその原因とされている。だが、いわゆる「解雇四条件」によって雇用が守られていた時代にも、下請けと大企業の「二重構造」、「ジャストインタイム」の厳守、退職強要のためのものでない配置転換や「研修」など、様々な雇用調整が行われてきた。「家族的雇用形式」を懐かしん

だり、「正社員」に登用すれば解決するというような議論は、日本型雇用の「光」しか見ていないものだ。むしろ、これを「パラダイム転換」の好機ととらえ、日本の企業、労働者にドラスティックな意識改革ができないだろうか。

ここにきて「ワークシェアリング」の実現を模索する動きが各所で見られていく。一人あたりの労働時間を短縮し、減少する仕事を多くの人で分かち合うことで、雇用を確保しようというものである。これらの議論は「緊急対応型ワークシェアリング」を念頭に行われているが、これ入り口に最終的に「多様就業型ワークシェアリング」へ結びつけ、労働時間短縮と余暇時間の創出への道筋をつけるように提案したい。後者は勤務の仕方を多様化し、女性や高齢者をはじめとして、より多くの方に雇用機会を与えることを目的としたワークシ

アリングである。このワークシェアリングを行えば、労働時間が減少しやすくなり、「余暇時間」の増加も期待できる。残念ながら、経営者側のワークシェアリング論は、労働時間、雇用問題の面から語られるが、これは余暇価値を軽視してきた日本社会ではやむを得ないことといえる。まず「緊急対応」の、ワークシェアリングを導入し、余暇時間の増加、労働時間の削減を行い、「余暇価値革命」をおこし、最終的に「多様就業型ワークシェアリング」を定着させるのである。その結果、育児・介護等を行っている従業員に対する短時間勤務制度等も導入しやすくなり、豊富な

経験と能力の蓄積のある高年齢者が企業で活躍することも容易になり「ワーク・ライフ・バランス」社会への転換もしやすくなる。また雇用保険による「職業訓練」の充実を、提案したい。一年間程度の雇用、週二十時間の労働を基準としてきた雇用保険の加入資格を緩和しようとする動きがあるが、それはあくまで「失業給付」を念頭に置いた議論である。失業を繰り返さず、多様な職業選択を可能にするためにも雇用保険の「雇用力開発給付」に注目すべきである。それにより、増加した余暇時間を有効に活用し、柔軟な雇用体系に対応できる人材を育成するのである。雇用保険のあり方を余暇利用と絡めて見直すことも必要である。

今年、ワークシェアリングに関する議論が活発化するの

間違いない。増加せざるを得ない「余暇」をどのように活用し、どのような生活スタイルを描くのか、余暇と労働に関するパラダイムを大きく変化させる「余暇価値革命」の好機である。これまで「カイシャ」が人々の絆であり、働くことの意義を過度に強調してきた社会構造を改め、「余暇価値」を高めた社会を作り上げる機会としたい。それを成功させるためには、余暇時間の充実が重要であり、日本余暇学会の役割もきつと大きくなるはずだ。

（編集部）

会費納入のお願い

平成21年度会費の納入をよろしくお願ひします。

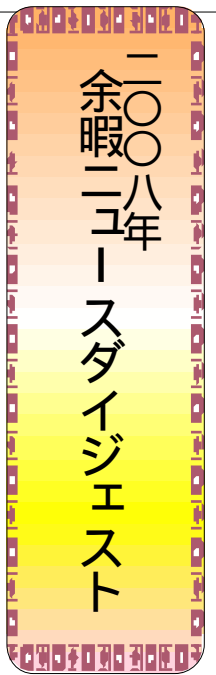
口座番号: 00140-9-729065

加入者名: 日本余暇学会

会費: 一般会員 10,000円

学生会員 5,000円

* 新し学会パンフレットができました。



二〇〇八年 余暇ニュースダイジェスト

「一月」

4日 治安悪化のため「パリ・ダカール・ラリー」中止発表
7日 自費出版大手「新風舎」民事再生法申請
8日 07年度ゲーム市場過去最高 六八七六億円
11日 厚労省日雇派遣「グッドウイル」に事業停止命令
28日 日本マクドナルドに残業代支払い命令

「二月」

7日 平塚競輪・最大12億円の払戻金となる「チャリポート」の四月導入を決定
15日 小中学校学習指導要領改定を発表、09年から脱・ゆとり教育鮮明に
26日 杉並区立和田中で「夜スベ」始まり

「三月」

7日 OEC Dが「対日経済審査報告書」で日本に非正規社員の待遇改善を求め
14日 「銀河」「なは」「あかつき」の三寝台列車、ダイヤ改正で姿消す
26日 内閣府、ワーク・ライフ・バランス推進状況を指標化
31日 大宮・鉄道博物館、開館五ヶ月半で入場者百万人突破

「四月」

12日 高知市の映画館、配給会社の要請で、映画「靖国YASUKUNI」の上映延期
18日 北京五輪聖火

「五月」

2日 平塚競輪「チャリポートセレクト」で競輪史上最高の一三二万五八二〇円の払い戻し
20日 成田空港開港三十周年
23日 07年過労自殺最多の81人(厚労省まとめ)
「六月」
23日 総務省「地デジ」完全移行(11年7月)へ向けて普及対策発表
「七月」
1日 製造業などでの日雇派遣を原則禁止を法制化
3日 総務省・非正規労働者の割合が35.5%、20年間で倍近くに上がったと発表
4日 デジタル放送のコピー回数を増加する「ダビング10」が始まる
6日 ユネスコ32回世界遺産委員会で

「六月」

19日 内閣府「生涯学習」に関する世論調査「生涯学習経験ある」が微減、「忙しくて…」が47%
22日 内閣府「ワーク・ライフ・バランス」普及の一環として「カエル・ジャパン」キャンペーンのシンボルマーク提供を始める
23日 「ハリポッター」最終巻に行列
31日 経済生産性本部「レジジャー白書二〇〇八」
余暇時間、支出において「ゆとり格差」拡大、身近な行楽や家庭用ゲーム機が好調

「七月」

「八月」
2日 赤塚不二夫さん死去
8日 北京五輪開幕
18日 夏の甲子園、大阪桐蔭高校優勝
24日 北京五輪閉幕
「九月」
3日 日欧米九カ国中、日本の年間有給

「八月」

「九月」
3日 日欧米九カ国中、日本の年間有給

「九月」

「十月」
1日 観光庁が発足
9日 全国のホテル・旅館の約四割が外国人旅行者受け入れず
「総務省調査」
「十一月」
5日 ユネスコ90件を無形文化遺産に登録。日本からは能楽、歌舞伎
21日 「二〇〇八年青少年白書」
「親子の時間」大幅減少。ほとんどない

「十月」

「十一月」
5日 ユネスコ90件を無形文化遺産に登録。日本からは能楽、歌舞伎
21日 「二〇〇八年青少年白書」
「親子の時間」大幅減少。ほとんどない

「十一月」

26日 政府は12月6日に死去した、作曲家の遠藤実氏に国民栄誉賞を贈ることを決定
「十二月」
26日 政府は12月6日に死去した、作曲家の遠藤実氏に国民栄誉賞を贈ることを決定
27日 消費者注目商品ランキング、「家庭用ゲーム機」「大型テレビ」など
25日 成田空港の利用客、通算七億人に達する
22日 政府調査「外国人観光客の増加」に対し、日本人の五割強が「不安」と回答。

「十二月」

「平泉」が落選
19日 内閣府「生涯学習」に関する世論調査「生涯学習経験ある」が微減、「忙しくて…」が47%
22日 内閣府「ワーク・ライフ・バランス」普及の一環として「カエル・ジャパン」キャンペーンのシンボルマーク提供を始める
23日 「ハリポッター」最終巻に行列
31日 経済生産性本部「レジジャー白書二〇〇八」
余暇時間、支出において「ゆとり格差」拡大、身近な行楽や家庭用ゲーム機が好調

「十二月」

「十二月」
26日 政府は12月6日に死去した、作曲家の遠藤実氏に国民栄誉賞を贈ることを決定
「二月発表」
日本を訪れた外国人観光客が、前年の同月比から24%減少。8月から5か月連続の減少。韓国人観光客は、2か月連続でほぼ半減(48.3%減)08年に日本を訪れた外国人観光客は八三五万二千人、前年からほぼ横ばい。(国際観光振興機構)

「十二月」

「十二月」
26日 政府は12月6日に死去した、作曲家の遠藤実氏に国民栄誉賞を贈ることを決定
「二月発表」
日本を訪れた外国人観光客が、前年の同月比から24%減少。8月から5か月連続の減少。韓国人観光客は、2か月連続でほぼ半減(48.3%減)08年に日本を訪れた外国人観光客は八三五万二千人、前年からほぼ横ばい。(国際観光振興機構)

「十二月」

「十二月」
26日 政府は12月6日に死去した、作曲家の遠藤実氏に国民栄誉賞を贈ることを決定
「二月発表」
日本を訪れた外国人観光客が、前年の同月比から24%減少。8月から5か月連続の減少。韓国人観光客は、2か月連続でほぼ半減(48.3%減)08年に日本を訪れた外国人観光客は八三五万二千人、前年からほぼ横ばい。(国際観光振興機構)

第10回世界レジャー会議報告

上智大学 師岡文男

norooka@sophia.ac.jp

二〇〇八年十月六日(月)～十日(金)、カナダ ケベック州 ケベック市コンベンションセンターで第10回世界レジャー会議(World Leisure Congress)が開催された。この会議は、世界レジャー機関(World Leisure Organization)が主催する。この会議は、

www.worldleisure.org・事務局 米国北アイオワ大学ウエルネス・レクリエーションセンター(内)の主催で開催されるもので、二年に一度開催されている。世界レジャー機関は、その前身はアメリカで誕生した国際レクリエーション協会(IRA)であり、その後、世界レジャー・レクリエーション協会(ILRA)への改名を経て現在の

Recreation Association
2 佐橋由美(レジャーレクリエーション学会員：大阪樟蔭女子大学)

佐藤馨(びわこ成蹊スポーツ大学)

Examining the Effectiveness of Leisure Orientation Construct as Framework for Understanding the Factors that Shape Peoples Leisure Lifestyles

「開会式(国際キャンプ連合田中祥子副会長の挨拶もあり)」、

「閉会式」、

「五大大陸代表パネルディスカッション」、

「パネルディスカッション」

3回、「ワイクシヨップ」

8回延べ183分科会、「フィードバックシヨップ(兼昼食)」、

「表」5回、「総会」、「各種会議」、「トリードシヨール」、「オーブニングカクテルパーティー」、「ケベック市四百年祭パーティー」、「昼食会」2回、「晩餐会」2回で、

研究発表演題数：601

題(ポスター発表を含む)であった。次回は、二〇一〇年八月二十八日(金)

「九月二日(木)に韓国チユンチヨン市(ソウル市近郊でドラマ「冬のソナタ」のロケ地として有名www.worldleisure2010.org)で開催される予定だが、大会組織委員会は八月二十八日(土)～九月五日(日)に第一回ワールドレジャーゲームズというニュースポーツ中心の世界大会の開催も計画している。筆者は、来日した大会組織委員から詳しい資料50セットを受け取り、日本余暇学会事務局に届けた。資料をご希望の会員は事務局までご連絡ください。



*以下の情報は韓国大会組織委員会のホームページによるものです。本文とは関係ありません。

第11回 ワールドレジャー総会概要

期間 2010年8月28日(土)～9月2日(木), 6日間

場所 国立江原大学

(ペクリヨン文化館, 60周年記念館など)

主催 春川市, ワールドレジャー機構, 韓国余暇文化学会

主題 余暇とアイデンティティ(leisure and identities)

* 副題1. 余暇と文化アイデンティティ

* 副題2. 余暇と民族アイデンティティ

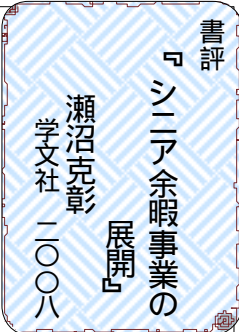
* 副題3. 余暇と全地球, 地域アイデンティティ

2009年 シンポジウム

期間 2009年8月28日(金)～8月29日(土)

場所 国立江原大学(60周年記念館)

テーマ 生活体育を通じたクオリティライフの向上



書評

『シニア余暇事業の展開』

瀬沼克彰

学文社 二〇〇八

高齢社会に向けた余暇事業はどうあるべきか、著者の提案を中心とした新刊。シニアを新しい時代のレジャークラスと位置づけ、シニアを担い手として、日本の余暇事業活性化することを提案している。

不況の今日「余った暇」をどのように人生設計に活かし、場合によってどのように入収入につなげるかという提案は、高齢者のみならずすべての世代に向けたメッセージといえよう。特に第二章はノウハウが満載で、若いうちから読んでおきたい。「シニアが地域で仕事をつくる」、「元氣ワールドを実現するために」は、老後を考え始めた中高年に大いなる教示となる。この章を参考にして、新しいレジャークラスを開発できるの

ではないかと考えた。本書の内容は余暇事業の動向や、これからの余暇事業への提案、余暇学の基礎知識など余暇ビジネスに関わる人、行政関係者、余暇研究者、これから老後をどのように過ごすか考えている人など多岐にわたり、章によって読者層が明らかに異なり、読者層が絞りきれいていない印象を受ける。ワークシェアリング社会に多くのヒントをあたえる本である。

書評

『キャリアラダーとは何か』

アメリカにおける地域と企業の戦略転換』 J・フィッツジェラルド (翻訳)筒井美紀 阿部真大 居郷至伸 勁草書房 二〇〇八

表紙の不思議なデザインの意味は、アメリカの職業構造の変遷を示している。アメリカンドリームのあった、かつてアメリカ社会は、底辺の労働者にさえ上

昇の道が開かれたピラミッド型の職業構造であった。しかし80年代に賃金の二極化が進み、幅広い底辺に対し、上部は極端に尖鋭化した画鋸のようなかたちへと変化した。この表紙はピラミッドを画鋸が突き破る様を表し、低スキル、低賃金労働者と、より大きい富をもつ少数の強者が独占する様を対比している。尖塔はより高く、より尖っていく。そして底辺は、ますます拡大していく印象すらつける。

本書には約20ページに渡る「誤読を避けるために」という「まえがき」があり、そこでは「予想される七つの反心・反論」が想定されている。さらに後書きは、訳者による日本の文脈を踏まえた解説・論点提起がついている。日本に導入するための

問題提起やその可能性について論じている。キャリアラダーとは、この本で紹介されたアメリカのキャリアラダー制度は、連続、階層化したキャリア政策である。この本によればアメリカでは仕事をスキルレベルに応じた階層に分け、専門性と賃金を高めるハシゴがある。そして、労働者は職場を移動しても、キャリアをアップさせていく。アメリカでは近年、数多くのキャリアラダーが移動しても、キャリアをアップさせていく。アメリカでは近年、数多くのキャリアラダーが移動しても、キャリアをアップさせていく。アメリカでは近年、数多くのキャリアラダーが移動しても、キャリアをアップさせていく。

新刊本紹介

『地下鉄のミュージシャン ニューヨークにおける音楽と政治』

スージー・J・タネンバウム著 / 宮入恭平訳 (朝日新聞出版刊)

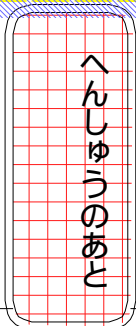
ストリートカルチャー(路上文化)を研究するうえでの必読書とされ、邦訳が待望されていた『アンダーグラウンド・ハーモニー』の翻訳本。ニューヨーク地下鉄のプラットフォームや車内で演奏しているミュージシャン、そして聴衆へのインタビューをとおして、多様な人種と文化が混在するニューヨークで集団を結束させる音楽の可能性を探る。また、公共空間での地下鉄音楽を規制しようとする警察や行政の役割を検証する。

1月20日発売

スージー・J・タネンバウム(Susie J. Tanenbaum) ニューヨーク州クイーンズ区長のもと、地域・文化コーディネーターに従事している。地下鉄ミュージシャンのためのガイド“Know your rights”の編纂にも携わっている。

訳者・宮入恭平氏は日本余暇学会会員。

余暇学研究 第12号 3月下旬発行予定 現在 編集しております!



へんしゅうのあと

今号も編集の都合から発行が遅れたことをお詫びします。次号は平成二十一年度日本余暇学会事業計画などを掲載します。

特にコミュニティカレッジを中心に低所得者やマイノリティでも、様々な資格にアクセスできる、キャリアラダープログラム用意されているのが興味深かった。コミュニティカレッジの仕組みもわかりやすく紹介してある。